

## ご挨拶

2015年（平成27年）3月20日

### 一般社団法人 日本飼料用米振興協会

代表理事 海老澤 恵子（運営委員会 代表）

運営委員

木村友二郎（木徳神糧株式会社 グループセールス事業部長）

谷 清司（全国農業協同組合連合会 営農販売企画部 専任部長）

信岡誠治（東京農業大学農学部 畜産学科 准教授）

加藤好一（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）

石澤 直士（株式会社ゼンケイ 代表取締役社長）

遠藤和生（j-fra 理事）

若狭良治（j-fra 監事）（NPO 未来舎 副理事長）

皆様、一般社団法人 日本飼料用米振興協会のシンポジウムに参加いただきありがとうございます。私どもの組織の前身は2008年に、国際的な飼料の高騰による畜産・大パニックを克服するにはどうしたらよいかをテーマに開催しました「畜産・大パニック大学集会」を原点に、組織されました任意団体である「超多収穫米普及連絡会」でございます。この「超多収穫米普及連絡会」を継続発展させて発足しましたのが本協会でございます。

これまで毎年、飼料用米普及を目指すシンポジウムを主催、共催、協力など様々な取り組みを積み重ねてまいりました。詳しくは、私どものホームページで紹介しておりますので、ご一読たまわれれば幸いです。

さて、これまで飼料用米の役割について日本国民の中で十分に共有されてきておりませんでした。「人の食べる米で家畜を養うなんて」という意見が生産者をはじめ、流通に携わる方々や消費者も含めて多く占めてきました。

ところが、日本人の食生活は、戦後70年間に大きく変化し、「米食」が大幅に減少し続けてきました。そのため、コメ余りの中で減反政策がすすめられてきました。同時に、輸入食品は年々増加し、気が付けば食料自給率は40%を切ってしまいました。

減反で休耕した水田の畑作変換などが進められてきましたが、種々の連作障害などで、コメを中心に作付けしてきた農家は、高齢化や後継者不足もあり、離農する傾向も多くなってきております。

私たちは、狭い耕地の連作障害のない有効活用が可能な米づくりが衰退することは日本国民の食料自給率の減少傾向をますます強くすることだと考えております。

食の安全、食の確保という課題は今後の私たちの国の在り方を大きく左右する事態へ進んでいます。発展途上国が経済を活発化し、購買力を大きく発展させてくる中で、現在のような脆弱な食糧自給率では、食料の輸入も十分に行えない状態が生まれてくることは容易に予測ができます。

食料の輸入が自由にできなくなる事態が出てきてからでは遅すぎます。

これまで、飼料用米を給餌した畜産製品（鶏卵、鶏肉、豚肉、牛肉、牛乳、乳製品など）はおいしいという評判を得てきました。しかし、実際の飼料用米利用の現場では、あるいは、購入する消費者の立場では、「コメ育ちだから」といって利用できる状況では必ずしもありません。

飼料用米の入手が必要な分だけ購入できるとは限りませんし、コスト面でいえば、とうもろこし等の輸入飼料と価格的に戦える状況にはありません。また、流通面で見ても、飼料用米が食用米の延長線での取り扱いであるために価格的に有利になる状態にもありません。

しかし、それでもこれらの問題点をいかに改善するかは、日本の農業、畜産の将来と食料自給率の向上という食料の安全保障問題を解決していくことが大切であることを示唆しております。

今回のシンポジウムでは、日本における農業畜産のありようを考え、生産から流通、消費の過程で内在する様々な問題をいかにしたら解決できるのかを検討していきたいと考えました。

循環型耕畜連携の実践事例に触れ、その可能性を学びましょう。  
また、生産から消費までの事業に携わり、その経過の中で様々な問題を感じ、その解決を図ることで事業を推進している事例に学び、私たちの可能性を追究しましょう。

飼料用米の実態を把握し、将来を展望する。そのことを通じて、食料安全保障とは何か？なぜ、食料自給率を向上させなければならないのか？また、そのためにはどうしたらよいのか？

消費者はおいしく、経済的な食品を求めています。流通事業者はいかにして、他事業者よりも優れた商品を開発して流通させるかが問われます。生産者は、円安で輸入価格が高騰する中で、国産品での代替えを実践している事業者も多くなっています。

一方、巷では、様々な商品の値上がりが続いています。

急速に進む高齢化、労働力不足が進み、日本の経済状況も大きく揺らいでいます。将来への不安を抱える国民は各世代で増加しています。しかし、そんな悩みを克服していくことが求められています。

私たちは、飼料用米の可能性に希望を持ち、食料自給率向上を目指す活動を大いに発展させていこうと思います。

皆様と共に考え行動してゆきたいと思います。

皆様と一緒に飼料用米の普及拡大を目指したいと思います。  
よろしくお願ひ申し上げます。

